

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 共同研究プロジェクト
「戦後東アジアにおける市民社会と民主化の過程の相互影響関係」

特別講演会

1970年代の「アジアとの連帯」とは何だったのか ーベトナム反戦運動(ベ平連)から韓国民主化支援運動へー

講師：室 謙二氏（作家）

〈日時〉2015年10月17日(土) 16時～18時

*講演会終了後に懇親会を予定しております。

〈場所〉北海道大学メディア・コミュニケーション研究院105教室

(北17条西8丁目)

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院では、本年より「戦後東アジアにおける市民社会と民主化の過程の相互影響関係」というテーマで共同研究を進めています。本研究プロジェクトは、東アジアにおける市民社会を実現するための社会運動に焦点をあて、それを東アジア域内の相互影響関係のもとにとらえようとするものです。

本講演会はその一環として、日本の市民運動の先駆けとなった「ベトナムに平和を！市民連合」(ベ平連)をとりあげ、ベ平連が70年代にアジアとの連帯を提起し、韓国の民主化支援をすすめた事例を検討します。

講師の室謙二氏は、ベ平連の若い世代を代表する活動家として活躍され、鶴見俊輔、小田実ら運動の先達と直に接して来られました。また、韓国の詩人・金芝河が逮捕されて以降は彼の救援運動に関わられました。ベ平連解散後は作家として数多くの書籍を執筆、1980年代半ばからは米国に拠点を移し、文筆活動を続けています。

講師略歴

1946年東京生まれ。学生時代からベ平連運動に関わる。

「金芝河らを助ける会」事務局長を務める。米国オークランド在住。

近著

『天皇とマッカーサーのどちらが偉い?』岩波書店(2011)

『非アメリカを生きる―(複数文化)の国で』岩波新書(2012)

『アメリカで仏教を学ぶ』平凡社新書(2013)

問い合わせ先

メディア・コミュニケーション研究院附属

東アジアメディア研究センター 芳賀恵

Tel / 011-706-5143

E-Mail / eastasian2@imc.hokudai.ac.jp